

**立花**：立花でございます。2024年3月期第1四半期の決算概要についてご説明いたします。

## エグゼクティブサマリー



### 第1四半期実績（対前年）

- **売上高、営業利益ともに2桁の増収増益を達成（売上高 10.8%増、営業利益 20.1%増）**

売上高：COVID-19収束に伴い日本やEMEAでは関連検査需要は減少も、中国のヘマトロジー分野などの検査需要は回復

米州、APは2桁増収を達成、中国も2桁増収を達成

売上原価：サービスコスト高は続くも、輸送費や原材料費の高騰は緩和し、改善

販管費等：将来の成長に向けた投資継続（研究開発、デジタル化など）、労務費高騰は想定範囲

営業利益：増益となるも、COVID-19やロシア影響および販管費増加などにより、想定を若干下回る

### 上期業績および通期業績

- **売上高：XR™シリーズの上市など2Q以降の伸長により、目標達成を見込む**

- **営業利益：売上高伸長などによる粗利増加および販管費等をコントロールし、目標達成を見込む**

3

まず3ページをご覧ください。

エグゼクティブサマリーです。第1四半期の実績は対前年で売上高、営業利益ともに、二桁の増収増益となりました。

売上高におけるCOVID-19関連検査は、日本やEMEAでのCOVID-19収束により、PCR検査や抗原検査の売上が減少しましたが、中国ではCOVID-19の収束により、病院でのヘマトロジー等の検査件数が回復し、試薬売上が大幅に増加しました。

地域別の売上は、EMEAと日本は横ばいでしたが、米州、APはいずれも二桁増収。中国も二桁増収となりました。詳細は後ほどご説明いたします。

売上原価は、欧米の人件費が依然高い水準で、サービスコスト高が続いていますが、輸送費や原材料費の高騰は緩和し、原価率が改善しています。

販売管理費等は、研究開発やデジタル化など、将来の成長に向けた投資は計画どおり進めていますし、労務費高騰は想定範囲となっています。

これらの結果、営業利益は増益となりましたが、COVID-19 やロシアの影響などによる売上高減少に伴う粗利益の減少、および販管費の増加により、営業利益は想定を若干下回りました。

上期業績および通期業績の予想については、売上高はXR シリーズの上市や中国市場の回復など、2Q 以降のポジティブ材料により、目標達成を見込んでおります。同様に営業利益についても、売上高伸長などによる粗利益増加と販管費等の適切なコントロールにより、目標達成を見込んでおります。

## 決算総括



(億円)	2024年3月期1Q		前年同期		前年同期比
	実績	構成比	実績	構成比	
売上高	953.5	100%	860.2	100%	110.8%
売上原価	449.4	47.1%	430.6	50.1%	104.4%
販売費及び一般管理費	301.4	31.6%	251.5	29.2%	119.8%
研究開発費	71.3	7.5%	69.1	8.0%	103.1%
その他の営業損益	1.4	0.2%	1.6	0.2%	89.7%
営業利益	132.7	13.9%	110.5	12.8%	120.1%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	86.2	9.0%	80.3	9.3%	107.4%

- ✓ **売上高** : 米州、中国、APが2桁伸長し、増収を達成
- ✓ **営業利益** : 販管費は増加するも、売上原価改善による粗利増加や円安効果により、増益
  - 為替の影響 売上高 +30.8億円 営業利益 +29.9億円
  - 前年同期為替レート適用の場合 売上高 107.2% 営業利益 93.0%
- ✓ **四半期利益** : 為替差損益の影響があるも、増益を達成
  - ※為替差損益: +8.5億円 (前年同期比△20.7億円)



5 ページをご覧ください。

決算総括です。

売上高は 953 億円で、前年同期に比べて 10.8%増と、二桁成長です。販管費は増加しましたが、売上原価の改善による粗利増加と円安効果により、営業利益は 132 億円、20.1%増。四半期利益は 86 億円、7.4%増となりました。為替はドルが 7.8 円の円安、ユーロは 11.4 円の円安で、売上高に 30.8 億円のプラス。営業利益に 29.9 億円のプラスとなりました。

## 売上高の増減要因（地域別・品目別）

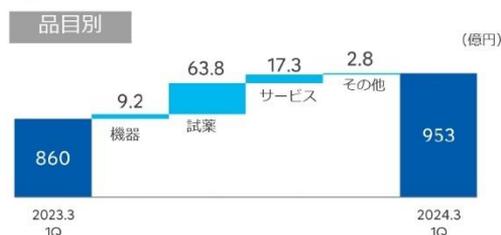


(億円)	2024年3月期1Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	現地通貨ベース
売上高	953.5	100.0%	110.8%	107.2%*
米州	270.2	28.3%	117.0%	110.4%
EMEA	291.9	30.6%	107.1%	99.0%
中国	167.2	17.6%	115.0%	115.1%
AP	93.7	9.8%	114.7%	112.9%*
日本	130.3	13.7%	100.6%	-
機器	200.7	21.1%	104.8%	100.5%*
試薬	585.8	61.4%	112.2%	107.9%*
サービス	135.8	14.3%	114.6%	115.4%*
その他	31.0	3.3%	109.9%	106.7%*

\*為替の影響を除いた円ベースの前年同期比伸長率

### 地域別の主な増減要因

米州	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘマトロジー分野において、カナダ、中南米を中心に伸長した他、尿分野も好調に推移し、2桁増収を達成</li> </ul>
EMEA	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロシアにおいて大幅減収となるも、サウジアラビアやスペインなど直販化に移行した国が高伸長し、横ばい</li> </ul>
中国	<ul style="list-style-type: none"> <li>COVID-19感染拡大前の検査数水準まで回復。ヘマトロジー分野の伸長が牽引し、2桁増収を達成</li> </ul>
AP	<ul style="list-style-type: none"> <li>インドやインドネシアに加え、韓国や台湾も好調に推移し、2桁増収を達成</li> </ul>
日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>COVID-19関連検査需要の減少などにより、横ばい。</li> <li>ダイアグノスティクス事業は、XRシリーズによるヘマトロジー分野の2桁伸長の他、ライフサイエンスも好調に推移し、+2.3%の伸長</li> </ul>



6

次の6ページをご覧ください。

地域別・品目別の売上高増減です。

円ベースでの売上高は、全ての地域で増収。品目別も全て増収となりました。

現地通貨ベースでの売上高について、米州は好調で、10.4%の二桁増収となりました。

EMEAのみ若干減収で、ほぼ横ばいとなっていますが、ロシアでの販売が昨年度4Q以降、大幅に減少したため、一方で、サウジアラビアやスペインなど、直販化に移行した国で大きく伸ばしたことでカバーをしております。

中国は15.1%の二桁増収で、後ほど次のページでご説明いたします。

AP地域は、インド、インドネシア、韓国、台湾などが好調で、12.9%の大幅増収となりました。

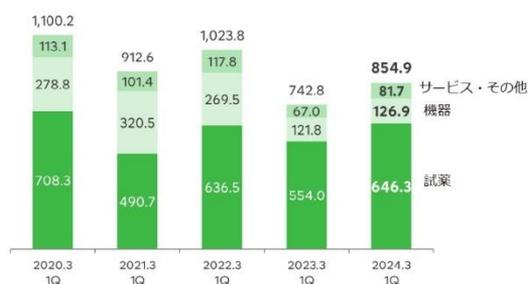
日本は、新型コロナの収束に伴うCOVID-19関連検査需要の減少や、後ほどご説明するメディカルロボット事業の減収がありましたが、ヘマトロジーやライフサイエンスの増収でカバーし、横ばいとなりました。特にXRシリーズの販売が好調で、ヘマトロジー分野が二桁成長、ライフサイエンス分野も好調に推移し、ダイアグノスティクス事業は2.3%の増収となりました。

## 中国（地域別）



(Million CNY)	2024年3月期 1Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	<b>854.9</b>	742.8	<b>115.1%</b>	115.0%
機器	<b>126.9</b>	121.8	<b>104.2%</b>	104.1%
試薬	<b>646.3</b>	554.0	<b>116.7%</b>	116.5%
サービス・その他	<b>81.7</b>	67.0	<b>122.0%</b>	121.8%

売上高推移 (Million CNY)



- COVID-19の影響（ロックダウンなど）により落ち込んだ検査需要はコロナ禍前の水準まで回復
- 政府調達方針の影響はあるも、機器・試薬ともに増収
- 2Q以降は、さらなる売上回復を想定

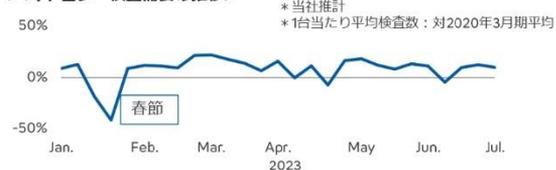
### ● 機器

- ✓ ヘマトロジー・血液凝固分野が伸長し、増収  
※現地生産製品の売上構成比も増加

### ● 試薬

- ✓ 検査需要の回復によりヘマトロジー・尿・血液凝固分野を中心に伸長し、増収

#### <ヘマトロジー検査需要の推移>



7

次の7ページをご覧ください。

中国の状況について、このスライドでご説明いたします。それ以外の地域については、補足資料にスライドがございますので、ご確認ください。

右下のグラフをご覧くださいと、COVID-19の収束に伴い、ヘマトロジーの検査数は、コロナ禍前の2019年度の水準以上に回復しています。それにより、試薬売上はヘマトロジー、尿および血液凝固分野を中心に伸長し、16%の増収となりました。

一方、機器売上は、コア分野であるヘマトロジーを中心に増収となりました。政府調達方針の影響は多少ありますが、当社は現地生産品目の拡大を進めており、ヘマトロジー機器売上における現地生産品が占める割合は約60%と、現地生産へ移行した効果が表れてきています。2Q以降はさらなる売上回復を想定しています。

## 売上高の増減要因（事業別・分野別）



### 事業別・分野別売上高



血液凝固・免疫分野はロシアへの供給停止やCOVID-19検査需要減少の影響を受けるも、ヘマトロジー分野を中心に、伸長

(億円)	2024年3月期1Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	為替影響を除く
売上高	953.5	100.0%	110.8%	107.2%
ヘマトロジー	592.8	62.2%	114.6%	110.4%
FCM	6.3	0.7%	128.8%	122.3%
尿	77.6	8.1%	113.6%	109.2%
血液凝固	136.6	14.3%	100.1%	99.0%
免疫	38.1	4.0%	89.3%	89.1%
生化学	7.9	0.8%	99.3%	98.0%
ライフサイエンス	46.1	4.8%	113.5%	108.3%
その他	44.8	4.7%	121.8%	116.8%
ダイアグノスティクス事業	950.5	99.7%	111.1%	107.5%
メディカルロボット事業	2.9	0.3%	57.8%	57.8%

次の8ページをご覧ください。

事業別・分野別の売上高です。

まず、為替影響を除く前年同期比で減収となっている分野について、ご説明します。血液凝固分野は、ロシアへの出荷停止やシーメンステリトリーでの低調な売上の影響がございます。これは新たなOEM契約でのビジネスがスタートする来年4月1日までは、米州とEMEAは従来どおり、シーメンスが販売します。一方、中国では、機器設置台数増加に伴う試薬売上の伸長がカバーし、血液凝固分野全体では、為替影響を除く対前期比99%のほぼ横ばいとなりました。

免疫分野は、インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナムなどAP地域において、機器設置増加に伴う試薬売上が伸長しましたが、日本でのコロナ収束によるCOVID-19関連検査の需要減などにより、対前年比89.1%の減収となりました。中国における試薬項目数増加の効果は、今後、出てくる予定であります。ちなみに、COVID-19関連検査の売上は、左下に記載のとおり、国内では4.7億円の売上で、前年同期に対して約半減をいたしました。海外地域の売上はなくなりました。

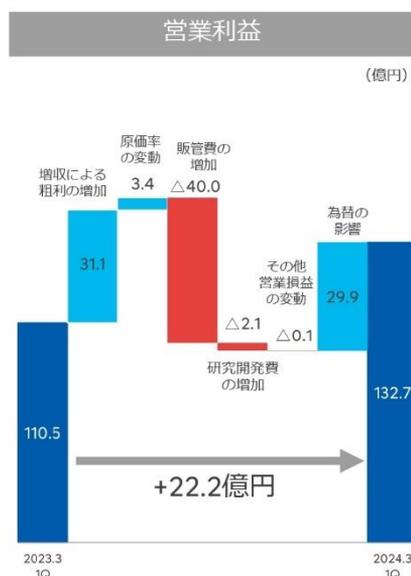
メディカルロボット事業については、前年同期に対して57.8%の減収ですが、これは当社が販売抑制をしたため、状況の詳細は、後ほどのスライドでまとめてご説明させていただきます。これらマイナス面をヘマトロジー、ライフサイエンス、尿などの各分野の増収でカバーしております。

ヘマトロジー分野は、中国ではコロナ禍からの回復により、機器・試薬ともに伸長。他の地域では米州、AP が好調に推移。さらに日本では XR シリーズの効果で機器・試薬ともに伸長し、二桁の増収でした。

尿分野は、米州における設置台数増加や、中国での検査数回復による試薬売上の伸長に加え、日本でも昨年発売した UF-1500 という新製品導入の効果により、売上が伸長し、二桁に近い増収となっています。

ライフサイエンスは、日本では AmoyDx 肺がんマルチ遺伝子 PCR パネル検査の売上が好調に推移し、また EMEA では OSNA の検査数が回復したことにより、増収となりました。

## 営業利益の増減要因



※下記数値・コメントは為替の影響を除く

- 増収による粗利の増加：31.1億円（プラス影響）
- 原価率変動による影響：3.4億円（0.4pt 改善）（プラス影響）
  - ✓ プロダクトミックス影響 0.6pt 改善、輸送費高騰の緩和 0.5pt 改善
  - ✓ 原材料高騰の緩和 0.5pt 改善
  - ✓ サービスコスト 0.8pt 悪化
- 販売管理費の増加：40.0億円（マイナス影響）
  - ✓ 各地域の人員増加や人件費高騰による労務費の増加
  - ✓ デジタル化関連費用の増加
- 研究開発費の増加：2.1億円（マイナス影響）
  - ✓ 製品開発への継続投資および薬事関連費用による増加
- その他営業損益の変動：0.1億円（マイナス影響）
- 為替の影響：29.9億円のプラス影響

9

次の9ページをご覧ください。

営業利益の増減要因です。

増益の主な要因は、増収に伴う粗利増加と原価率の改善に加え、円安のプラス影響もありました。

原価率は、対前年同期比較では0.4ポイントの改善となりました。欧米の人件費高騰によるサービスコスト高は継続しており、0.8ポイント悪化しましたが、原材料費や輸送費は、昨年度の高騰から緩和しており、いずれも0.5ポイント改善しました。

また、試薬売上構成比の増加などのプロダクトミックスの影響でも、0.6ポイント改善しており、販売管理費は、各地域での施策における人員増加や、人件費高騰による労務費の増加および社内のデジタル化関連の費用の増加がありましたが、ほぼ計画内に収めています。

研究開発費は、製品開発への継続投資および薬事関連費用により増加していますが、これも計画内に収めました。

## ダイアグノスティクス事業の取り組み



- XRシリーズ EMEA XRシリーズおよび検体搬送システム商品群（BT-50など）を販売開始（2023年7月）  
日本 1Qも堅調に推移し、ヘマトロジー分野の機器売上は2桁伸長を達成（2022年7月よりBT-50などを販売開始）  
AP 2024年3月期2Qより販売開始予定  
中国 BT-50をXN™シリーズへの追加モジュールとして販売開始、XRシリーズは2024年3月期3Qに販売開始予定  
米州 BT-50をXNシリーズへの追加モジュールとして販売開始、XRシリーズは2025年3月期より販売開始予定



XRシリーズと検体搬送システムの接続イメージ

10

次の10ページをご覧ください。

ダイアグノスティクス事業の取り組みについてです。

まず、ヘマトロジーのXRシリーズですが、EMEAにおいて、XRシリーズおよび精度管理を完全自動化する世界初のユニット、BT-50をこの7月から販売を開始しました。

日本においては、昨年7月にBT-50等の追加モジュールを導入した後、好調に推移し、今期1Qのヘマトロジー分野の機器売上は2桁伸長となりました。

他の地域におけるXRの販売開始予定は、APは2024年3月期の2Q、中国は2024年3月期の3Qの予定、米州は2025年3月期より販売開始する予定です。ただし、BT-50については、ヘマトロジーシステムの競争力を高める非常に有効な製品ですので、中国と米州において、既存XNシリーズへの追加モジュールとして、既に販売を開始しています。

## ダイアグノスティクス事業の取り組み



- 血液凝固 シーメンス社とのOEM契約に基づき、2024年4月販売開始に向けて準備を推進中
- 中国 新たに間質性肺炎マーカー（KL-6）を登録完了し、免疫分野試薬項目が合計58項目に拡大（2023年7月）  
血液凝固・尿・ヘマトロジー・免疫分野の機器現地生産の機種追加を推進中
- アルツハイマー病検査  
日本 アルツハイマー病検査（微量の血液から脳内アミロイドβを測定する検査）の販売開始（2023年6月）  
米州 2024年3月期2Qより、ラボアッセイサービス（LDT）を開始予定
- 日本 クリニカルフローサイトメトリーシステム（XF-1600™、PS-10）の販売開始（2023年5月）
- EMEA 尿路感染症の薬剤感受性を迅速判定するプライマリケア市場向け検査システム（PA-100）の販売開始（2023年6月）



クリニカルフローサイトメトリーシステム



PA-100検査装置と試薬カートリッジ（検査パネル）

11

次の11ページをご覧ください。

血液凝固においては、シーメンスとのOEM契約に基づき、特に欧米での来年4月からの直販に向けて、着々と準備を進めています。

中国の免疫試薬項目は、新たに間質性肺炎マーカー、KL-6を追加し、合計58項目になりました。今後も、さらに増やしていきます。中国での機器現地生産については、今後さらに血液凝固、尿、ヘマトロジー、免疫の各分野で機種追加をすべく、取り組んでおります。

アルツハイマー検査は既に発表のとおり、6月に日本で発売いたしました。米州でのアルツハイマー検査のラボアッセイ（LDT）については、今年度2Qより開始予定です。

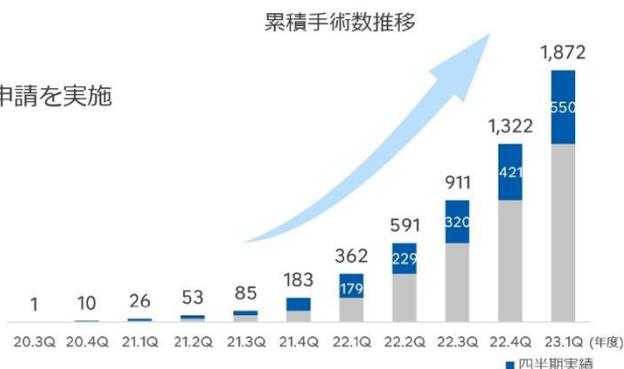
クリニカルフローサイトメトリー、XF-1600は、既に米州、EMEAおよびAPで販売していますが、今年5月から、日本でも販売を開始しました。まだ金額は小さいですが、今後の成長を期待しております。

EMEAにおける尿路感染症の薬剤感受性迅速検査システムは、昨年度100%子会社化したスウェーデンのAstrego社が開発したシステムを、この6月から、EMEAで先行して販売を開始しました。今までにない全く新しいコンセプトの製品で、お客様の期待は非常に大きく、EMEAでの販売開始で市場づくりを進めながら、他地域への展開準備をしていきたいと考えています。

## メディカルロボット事業の取り組み



- 2023年7月18日にバージョンアップモデルを販売開始
  - ✓ ハンドクラッチ機能により、スムーズな手術を実現
  - ✓ 蛍光画像に対応した内視鏡も使用が可能に
  - ✓ その他要望事項に対応
- 累積手術数は、2024年3月期1Q時点で1,800件を超え、順調に推移
- 累計導入台数：36台（1台増※）  
※バージョンアップモデル販売前のため
- 認定医師数：333名（46名増）
- 2023年4月にシンガポールの保健科学庁への薬事申請を実施



12

次の12ページをご覧ください。

メディカルロボット事業の取り組みについてです。

先月7月に、hinotoriのバージョンアップモデルの販売を開始しました。従来のフットクラッチからハンドクラッチに変更し、より手元でスムーズな操作性ができるように実現しています。また蛍光剤に対応した内視鏡も使用できようにして、高精細な近赤外蛍光モードなど複数種類の画像モードを追加しました。

その他、市場要望にも対応しており、例えば鉗子のぶれをご指摘いただいておりますが、その点も市場要望に応じて、改良を同時に行っております。これらのバージョンアップを7月に予定しておりましたため、1Qはhinotoriの販売を当社の判断で控えておりました。そのため1Qの実績は1台のみで、累計36台の導入となっております。

1Q末時点の累計手術数は、1,872件まで増加しており、7月末には既に2,000件を超えて順調に推移しております。

また、サーティフィケートを取得した認定医師数も、333名に増えています。

hinotori の海外展開については、今年 4 月にシンガポールにて薬事申請を行いました。日本の薬事承認を取得していることで、審査の簡易化を図ることができる国の一つであることと、高水準の医療環境が整っているため、海外展開の最初の国として取り組んでいます。

## 2024年3月期 通期業績予想 (2023年5月公表から変更なし)



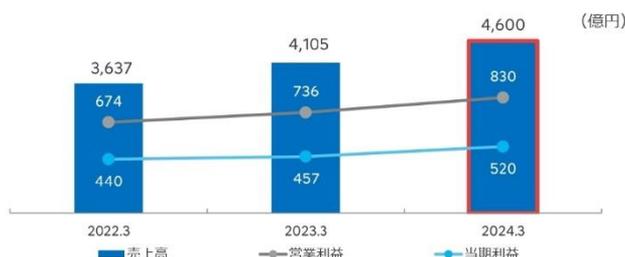
	2024年3月期		2023年3月期		伸長率
	予想	構成比	実績	構成比	
売上高	4,600	100.0%	4,105	100.0%	+12.1%
販売管理費	1,245	27.1%	1,123	27.4%	+10.8%
研究開発費	375	8.2%	310	7.6%	+20.9%
営業利益	830	18.0%	736	17.9%	+12.6%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	520	11.3%	457	11.2%	+13.8%
投資計画	設備投資 478億円		減価償却費 350億円		

### ● 想定為替レート

	通期想定	前期実績 (23年3月期)
1 USD	133.0円	135.5円
1 EUR	143.0円	141.0円
1 CNV	19.2円	19.8円

### ● 為替感応度の概算値

	売上 (年間)	営業利益 (年間)
USD	7.9億円	1.8億円
EUR	5.8億円	1.4億円
CNV	54.6億円	41.8億円



次の 14 ページをご覧ください。

通期業績予想です。

5 月に発表させていただきましたが、そこからの変更はございません。中国市場はさらなる回復を想定しておりますし、ロシアの影響などは、他の国や地域でカバーしていく予定です。

また、販管費等も適切にコントロールをしていきます。今後の為替の動向や各種外部環境の変化を注視しながらも、各種施策の推進により、通期業績達成を見込んでおります。

以上でご説明を終わります。

以上